

兼題「傘」

池田 隆

次回「何でも書こう会」の開催通知が届く。さて、何を書くか。雨は止んでいるな。散歩しながら考えよう。

テーマ選びに自らへ兼題を課してみるか。手に持ったビニール傘が目に入る。「傘」はどうか。小学生の頃より順に思い出す。相手をブスツとやる番傘喧嘩、負けて帰ると親からの小言。コウモリ傘が欲しかった。だが先日も小学生時代の事を書いたから今回はパス。

中学時代は？ 家族を迎えに駅まで傘を持って出掛けた思い出がある。横に何本もの傘を抱えた小母さんもいた。サザエさんに出てきそうな陳腐な光景だ、止めとこう。高校に入り電車通学。雨が降り出した下校時、前に行く同級生の女の子に駅までと傘を差し伸ばすか否か悩んだものだ。それも続編がないし。

「シエルブルーの雨傘」というフランス映画があったな。流行っていた主題歌につられ映画を見た。しかし悲しい筋書きだったことしか覚えていない。

日が差してきた。雨に濡れた樹々の緑が雲間の青空に輝いている。郭公やホトトギスも鳴きだす。梅雨の晴れ間は最高だ。「晴れてまさに好く、雨もまた奇なり」と蘇軾は西施を譬えたが、泣いた後の笑顔の方がより素晴らしいのに。

マルタ島でレース模様の日傘を差している上品な婦人を見かけ、同じような傘を妻への土産にと買ったことがある。だが重すぎると使ってくれない。今年は俺に続いて妻も傘寿を迎えた。しかし相合傘の落書き風に夫婦話を認めるのは気恥ずかしい。

今朝のテレビで狭い通路用にと、自由に回転する新製品の傘を紹介していた。それより江戸の美風「傘かしげ」を勧めてくれよ。これも書くよと年寄臭い。

急に黒い雲が頭上を覆い、大粒の雨が落ちてきた。暗雲の世界に「核の傘」へ思いは至る。未だにその傘に振り回されている国際政治について論じたくなる。ウーン、しかし八百字では無理だ。

名案と思った兼題方式でも適当なテーマが頭に浮かばず帰宅、濡れた傘を玄関で閉じる羽目となる。さて、どうしよう。